

## 生成的記号論による B.ラッセルの「神秘主義と論理」

大山 智徳（無所属）

## 発表要旨：

本報告の目的は B.ラッセルの「神秘主義と論理」(1914=1959)を意味論=シニフィエとし、その構文論=シニフィアンを圏論として援用し、構文論と意味論の随伴=相互作用、すなわち、シニフィエとシニフィアンの随伴を考えることで生成する記号論としての生成的記号論の可能性を紹介することにある。方法は「神秘主義と論理」の「推理と直観」、「統一と数多」、「時間」、「善と悪」の4つの節を意味論=シニフィエとし、順番に自然同型、同型(射)、随伴を構文論=シニフィアンとし、この意味論=シニフィエと構文論=シニフィアンの関係、すなわちシニフィエとシニフィアンの関係を随伴=相互作用と考えていくこととする。その結果、「推理と直観」の直観には隠れた直観論理があるとすればその構文論=シニフィアンは自然同型、「統一と数多」の構文論=シニフィアンが同型(射)だとすれば「万物は一である」(ラッセル:24)、ヘン・カイ・パーン(一にして全 全にして一)、三位一体や両義性の構文論=シニフィアンとして同型(射)の応用範囲は格段に広がることとなる。さらに、意味論=シニフィエと構文論=シニフィアンが随伴であるとみなせば「統一と数多」は同型(射)の意味的表現であることが論証された。「時間」と「善と悪」の構文論=シニフィアンが随伴であるとすれば自然言語では難しい関係が生成的記号論により、可視化される。こうして、「神秘主義と論理」がきれいに意味論から構文論に mapping され、「神秘主義と論理」の生成的記号論の基礎が構築される。同時に「神秘主義と論理」は『言語化関手(=言語化編成原理)と直観化関手(=直観化編成原理)』と論理』が表現されているがそれを随伴に代入し、再び記号論に差し戻すと「行為と身体化関手(=身体化編成原理)」と双対に作動していることやポパーの「三世界論」(1972=1974)やフーコーの「真理と主体」(1971=1999)、デリダの「正義論」(1990=1999)という意味論=シニフィエと構文論=シニフィアンの関係が極めて近い関係にあることを示すことができる。そして、この圏論をシニフィアンとする記号関係が生成的記号論として新しい構文論=シニフィアンという共通言語になりうる可能性を秘めていることが示せた。なお、詳細な議論は「註」において展開する。そして、本論と「註」は意味論=シニフィエと構文論=シニフィアンの随伴=相互作用となっている。ここにおいて、本稿の目的である生成的記号論の可能性を示す。

## 文献

- Mac Lane, S., 1998, *Category for the Working Mathematician*, New York: Springer-Verlag (2nd edition). (=2013, 三好博之・高木理共訳『圏論の基礎』丸善出版.)
- 大山智徳, 2006, 「寄り道 ヤクザの解放とは何か?」『解放社会学研究』20:95-97.
- 一, 2022, 「圏論による三世界論のミニマムモデル」『社会学論叢』203:21-35.
- 一, 2023, 「圏論によるW.ベンヤミンの神的暴力の社会学的可能性」『社会学論叢』205:35-52.
- 一, 2025, 「圏論による現象学的社会学とその可能性—法悦の社会学へ」『社会学論叢』209:23-42.
- Russell, B., 2008, *The Project Gutenberg eBook of Mysticism and Logic and Other Essays*. (=江森巳之訳, 1959=1995, 『神秘主義と論理』みすず書房.)
- 亘明志, 2004, 『記号論と社会学』ハーベスト社.